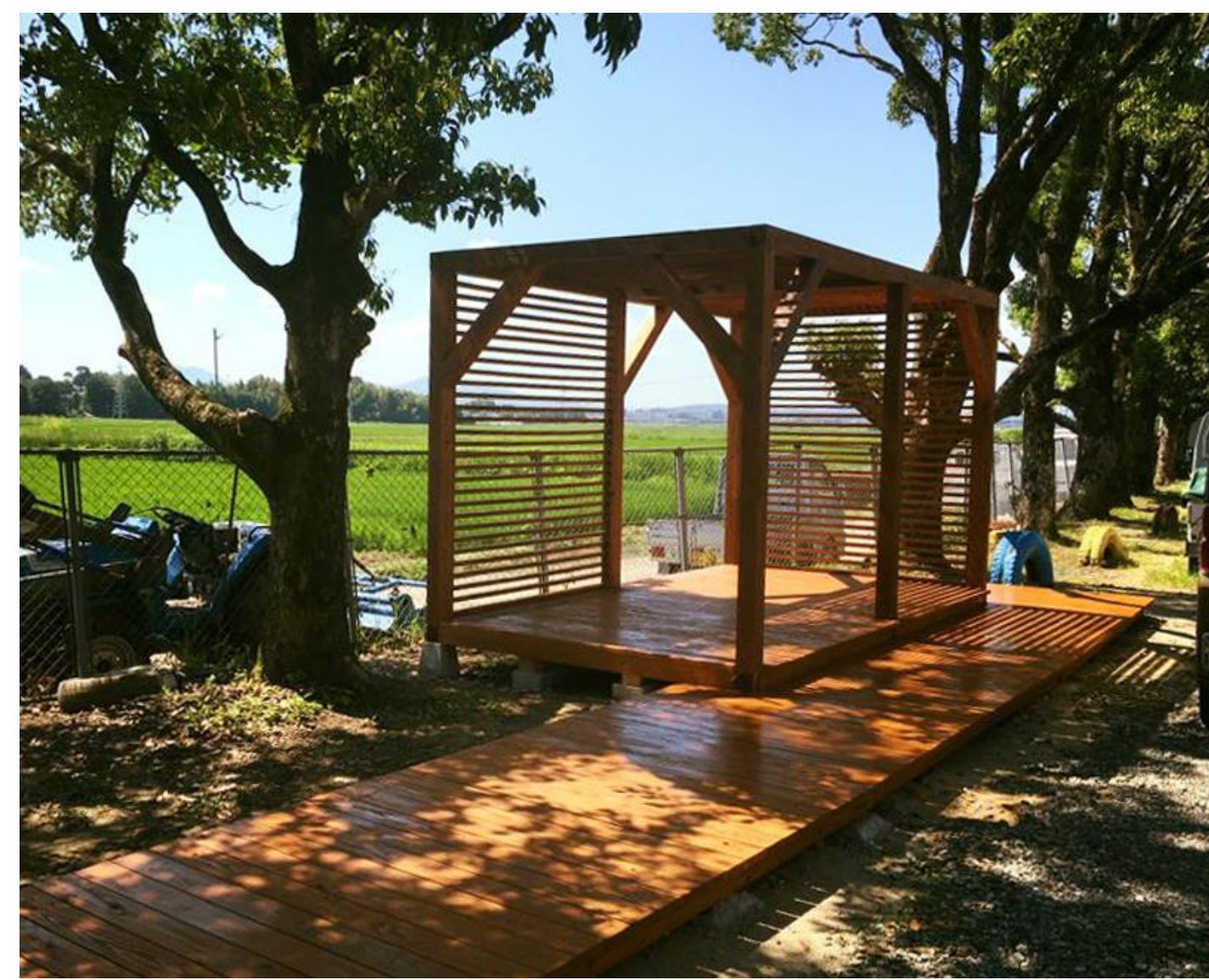




『みんなの緑陰テラス』テラスデッキと東屋から隣地の水田地帯を望む(セルフビルド参加学生の休息風景)



テラス南側から北側の緑陰並木と東屋、隣地水田地帯を望む



東屋スケルトン外観(制作時)



東屋内側から北側テラス、仮設住宅を望む



テラス北側から南側の緑陰並木と東屋を望む(制作時)

【計画趣旨】

1. 熊本地震被災地支援：益城町飯野小仮設住宅団地での居場所づくり

研究室では2016年春から熊本地震の被災地支援活動を実施していたが、特に夏からはKASEI：九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクトに取り組み、担当となった熊本県上益城郡益城町の飯野小仮設住宅団地の支援に積極的に取り組んだ。自治会長と数度の打合を重ねた結果、住民の交流・休息のための緑陰テラス+東屋を、企画・設計し、2017年夏に現地でセルフビルドにより制作した。

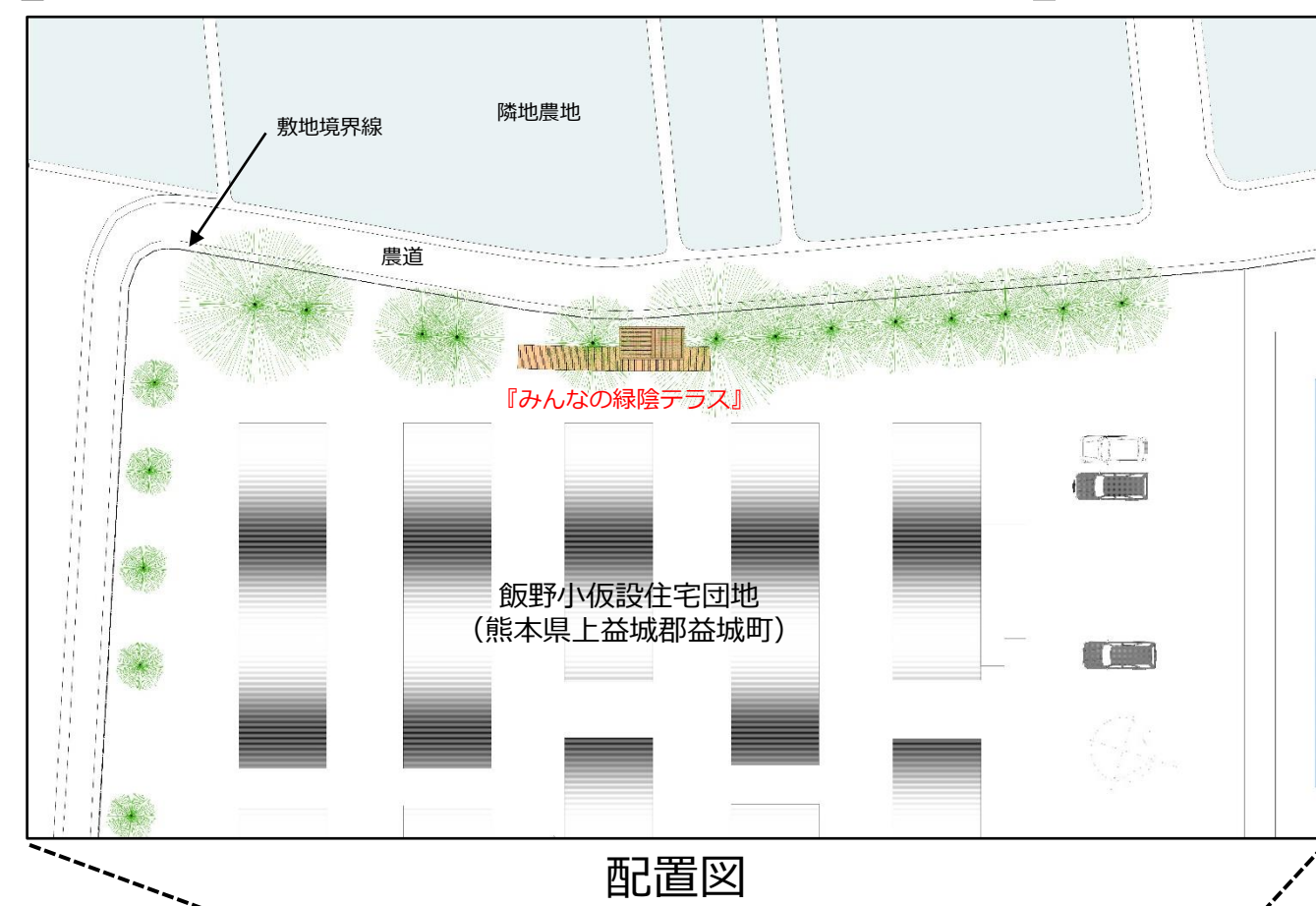
2. 緑陰の豊かさと隣地農地景観の見える化と居場所化(プレイスメイキング)

住民の方々は無味乾燥としている鉄骨プレハブ造の仮設住宅で暮らされており、県が提供した交流施設『みんなの家』も小規模であったため、半屋外の休息や交流のための場所を模索していた。その中で、敷地西端に、緑豊かな並木があることを発見し、この緑陰の豊かな環境とそこから見える広々とした隣地の農地景観を見える化して子どもたちや高齢者に利用してもらうため、木製のデッキと西日除を意識した木製ルーバーによる東屋をセルフビルドによって居場所化した。

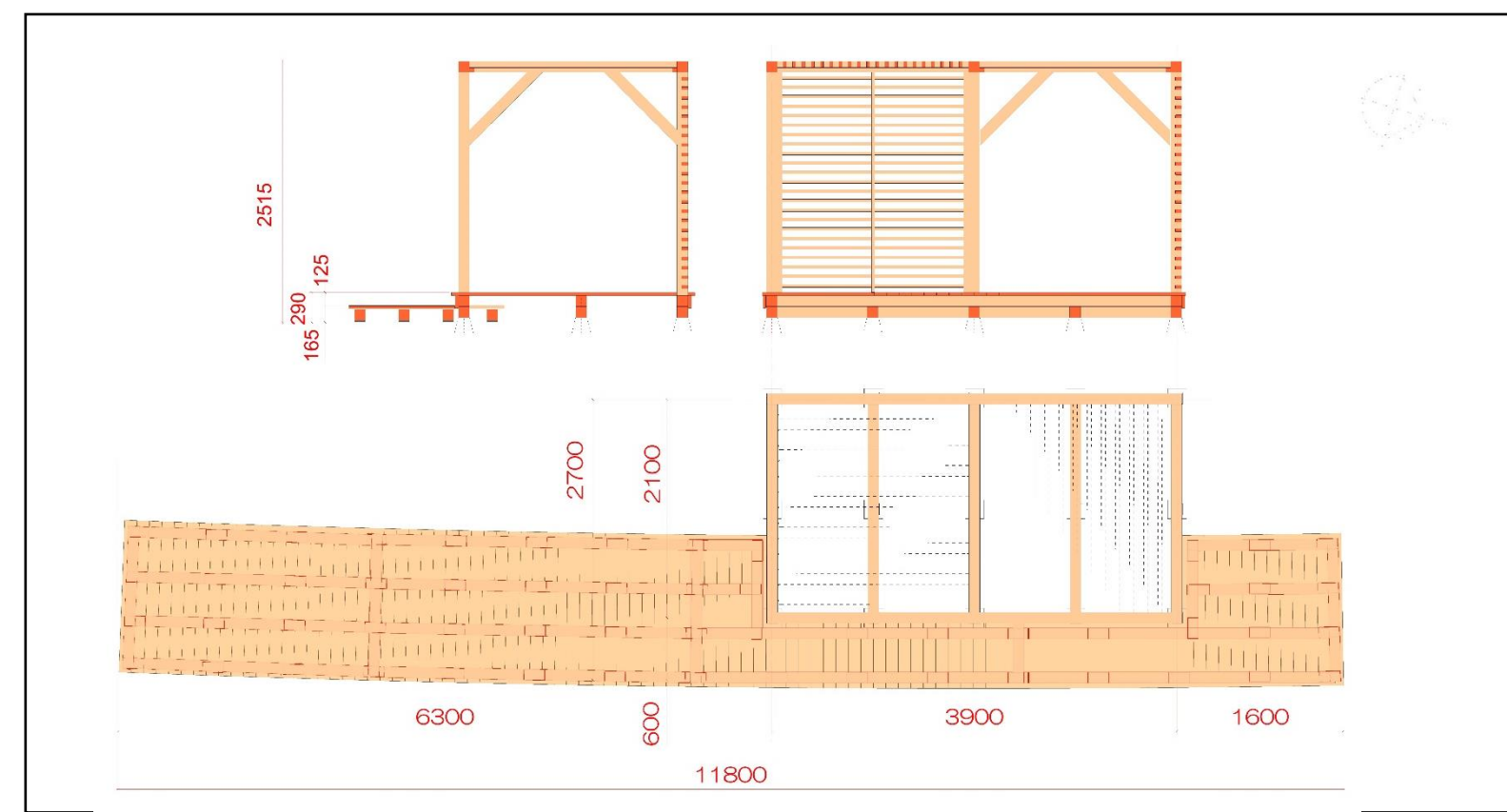
3. セルフビルド・研究室学生参加による被災地支援

『みんなの緑陰テラス』は、佐久間治を代表とする九州工業大学建築デザイン研究室で企画、設計し、研究室男子のほぼ全員9人で一週間現地に泊まり込み、セルフビルドにより制作した。益城町は大学から200km近く離れており、樹木の位置、サイズの実測、自治会長への数度にわたる打合せやヒヤリング、地元工務店への技術相談など、準備に1年を要した(活動はボランティアとしてであるが、木材の調達のみ、熊本県から調達を依頼し支給いただいた)。

【配置図・平面図・立断面図】

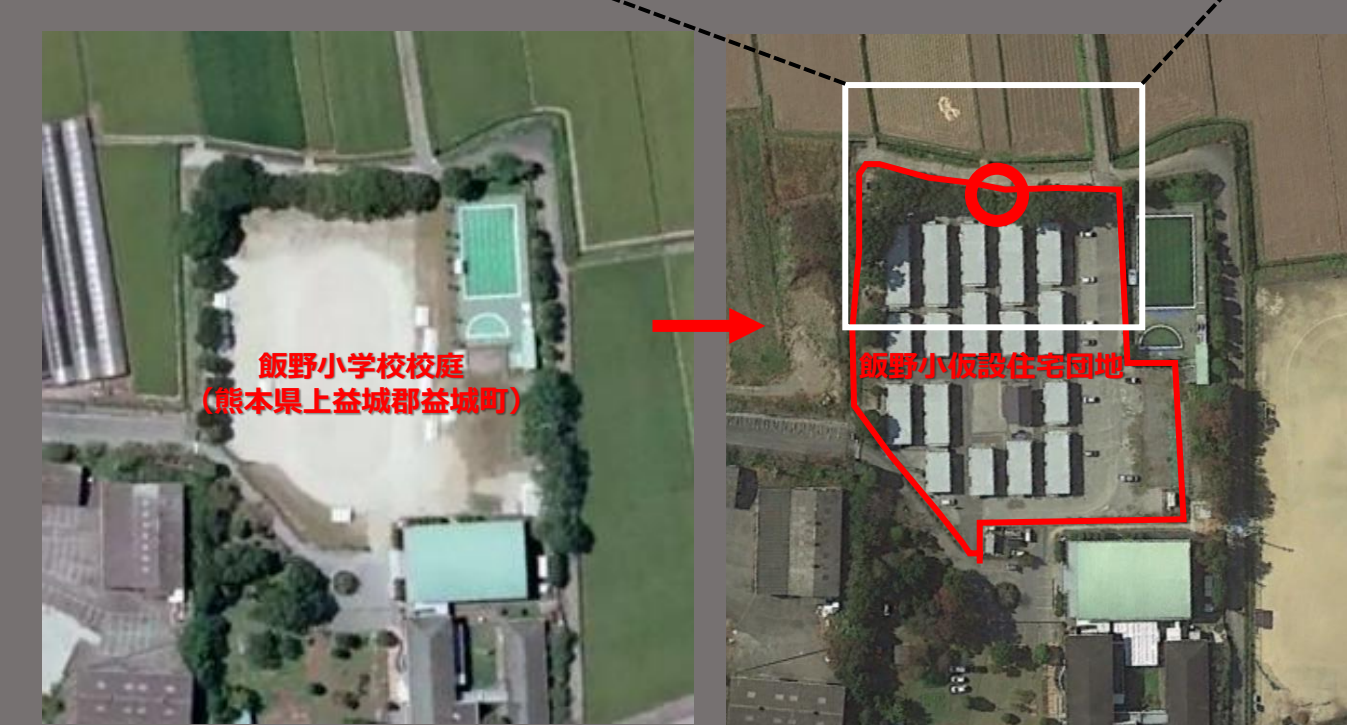


配置図



平面図・断面図

【周辺環境説明図・被災前後の環境の変化】



飯野小学校校庭の変容(左:被災前、右:被災後)



住宅団地環境改善のプロセス(左:環境改善前、右:『みんなの緑陰テラス』整備後)



セルフビルドメンバーと草野自治会長